Rutaro Sugiyama

北米層雲俳壇

六月吟詠

岡田　花子

洗つてもおちない染のあるその顔洗う
白樺の若葉三日月さまです
つゆけし青梅おちてあり

米倉　久枝

こんな生活しても燕が宙返る私の空
余生素直に生き山は湖の月になるべき星
ここをついの家として朝は風入れている寢室

宮武　九方

ゆくりなく加州に出て今宵月の皆既蝕を仰ぐ
ローレの芝生ようやくのびて花園に花のなし
青葉若葉の密蜂の羽音

大月　郁夜子

今日は今日の風吹くままに朝顔のつる
命ありて今年も母の日を壽く幸せとする
暑い日は夜に猫もきて凉む木影がある

腹卷　みて子

亀も苺が好きで香をかいで厨に這つてくる
月蝕を居眠りしていて目ざむれば元の月夜
久々に帰つてきて休みもせずこそこそ働く娘であり

大月　喜三朗

うちの小さな池にも朝はみどとに開く水蓮の花
てつせんの大輪今日咲きそめし日記とす
夏の潮は青し半島から大陸へは長い橋をわたる